

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = パウエル議長の枠組み見直しが焦点に

2020年8月24日

27日、28日にカンザスシティ連銀が主催する年次シンポジウム、いわゆるジャクソンホール会合が開催されます。

例年ワイオミング州ジャクソンホールで開かれる同会合には、世界各国からの中央銀行要人などが招かれ、世界中の注目を集める一大イベントとなっています。しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、オンラインでの開催となっており、ストリーミング配信が予定されています。

この形式の下で、パウエルFRB議長は現地時間27日午前9時10分(日本時間同日午後10時10分)からの基調講演を担当します。

歴代の議長がFRBの方針変更などを説明する際に利用されてきた同会合。市場はパウエル議長による金融政策の今後の枠組みの見直しがどのようなものになるのかに注目しています。

直近7月28日、29日に開催されたFOMC(連邦公開市場委員会)の議事録が19日に公表され、その中で、YCC(イールドカーブコントロール：日銀の長短金利操作や豪中銀の3年物国債利回り目標のように中長期の金利をコントロールするもの)について、改めて否定的な姿勢が示されました。複数の委員から過剰なバランスシート拡大につながる可能性が指摘され、有効性については緩やかと消極的な見通しが示されています。また、市場が期待した次回9月会合でのフォワードガイダンス強化を示唆する言及も見られませんでした。

一方で長期の目標や戦略について新たに取りまとめる作業が続いていることが示されました。

こうした状況を受けて、市場では議長がジャクソンホールでの演説で、これまで包括的な見直し作業の中で検討した内容やその背景についての説明がされるのではとの期待を強めています。

現行の超緩和的な政策の下で、将来的に見込まれているインフレ率の上昇について、中長期的に2%目標に安定して近づくために、一時的に2%を上回る状況を許容するような姿勢を示すなどの変更が見込まれています。

ただ、あまり踏み込んだ内容まで言及すると、9月15日16日の次回FOMCの役割を先取りしてしまう形になるとの指摘もあり、どこまでの発言があるかは微妙なところです。

インフレ率の2%超え一時許容などの変化は、現状の超緩和的な政策の長期維持につながることから、ジャクソンホール会合の内容次第ではドル売りが広がる可能性があります。

米経済指標自体は27日の第2四半期GDPも改定値で速報値に比べると注目度が低いなど、それほど目立ったものは予定されていません。

イベントとしては24日から27日にかけて行われる米共和党全国大会が、相場にも大きな影響を与える11月3日の米大統領選に向けた一つの目途となりそうです。

17日から20日にかけて行われた米民主党全国大会では、20日にバイデン前副大統領が指名受託演説を行い、大統領選の民主党候補として正式に決定しました。

24日から始まる共和党全国大会では最終27日にトランプ大統領が指名受託演説を行い、共和党候補として正式に決定し、今後大統領選に向けた選挙戦が正式にスタートします。

現在の世論調査ではバイデン前副大統領がトランプ大統領をリード。初の黒人副大統領候補となるハリス上院議員の人気もあり、優位に選挙戦に臨むことが期待されています。

毀誉褒貶のあるトランプ大統領ですが、米株が史上最高値を付けるなど、マーケットという面で見ると、高い評価があります。一方バイデン副大統領は法人減税の廃止、高所得者層への課税強化などを打ち出しており、株安の動きを誘うとみられているだけに、このままバイデン氏が優勢を保つとドル売りが広がる可能性があります。

ただ、前回の大統領選でもトランプ大統領は劣勢との下馬評を本番でひっくり返しました。今回も大差というほどの差はついておらず今後の選挙戦動向や、新型コロナウイルスの感染拡大状況次第では逆転が十分にあり得ます。

11月3日の大統領選本番までは各社による世論調査動向などをにらみながらの展開が続くと見られます。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チエースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。